

## 議 員 報 告 書

1 議 員 名	山根 温子
2 期 日	平成29年 7月 22日 ~ 平成29年 7月 24日
3 研 修 先	第59回自治体学校 in 千葉 青葉の森公園芸術文化ホール (千葉市中央区青葉町977-1)
4 内 容	1日目 全体会 記念シンポジウム「住民参加で輝く自治体を」 岡田知弘(京都大学/自治体問題研究所理事長) 渡辺治(一橋大学名誉教授)、中山徹(奈良女子大学) 2日目 分科会 「公共施設とまちづくり」森裕之(立命館大学) 3日目 特別講演 「社会教育・公民館の役割と地方自治」 長澤成次(千葉大学名誉教授)

### ■ 研修の目的

地方自治の拡充や住民の暮らしなどについて、自治体議員や職員、学者・研究者、住民が全国から集い、問題提起・活動報告などを共有し考える大会である。

今回、この大会の共催団体が、各地域の自治体問題研究所であり、全国的な課題としての人口減少や公共施設とまちづくりについての講演・講座を受講するため研修参加した。

### ■ 概 要

1日目は人口減少が進む地方での地域再生、地方自治のあり方についてのシンポジウム、2日目は12の分科会の中から「公共施設とまちづくり」について立命館大学の森裕之教授を助言者とした分科会を聴講、3日目は社会教育・公民館の役割と課題についての特別講演を聴いた。

### ■ 成果または所感等

今回聴講した分科会のテーマ「公共施設とまちづくり」においては、国が定めた国土強靱化基本計画と公共施設等総合管理計画をセットで地方に策定を迫り、計画推進に向けるため集約化・複合化事業、転用事業、除却事業に対する起債・交付税措置が取られ、さらには2017年度には公共施設等適正管理推進事業債の創設、長寿命化事業や立地適正化事業への財源措置もされるようになったことを知った。

公共施設の再編・統廃合は、施設の老朽化、人口減少、財政逼迫という3つの状況が交差する政策結節点と言える。自治体は、公共施設マネジメント計画を地域住民と共に進めていくことが求められているが、実際には、自治体による拙速な公共施設再編による政治的混乱が、阪南市(大阪府)や松原市(大阪府)において見受けられる現状を地元参加者からの発表として聞いた。

反対に長寿命化による維持を選んだ堺市や地域に検討を委ねた飯田市もあり、それぞれの自治体の取るべき政策の違いが地域や自治体の将来へ大きな影響を与えると改めて認識した。

(別紙様式2 ②)

議員報告書	
1 議員名	芦田宏治
2 期 日	平成29年 8月10日 ~ 平成29年 8月 11日
3 研 修 先	青森県田舎館村役場 田んぼアート第1・第2会場
4 内 容	田んぼアート先進事例の調査 田んぼアート発祥の地である、青森県田舎館村役場で田んぼアート事業の取り組みについて聞き取りをした後、田んぼアート第1・第2会場を視察する。
<b>■研修の目的</b> 平成29年度事業方針の重点施策として「田んぼアートプロジェクト」への取り組みが計画されており、先進地の事例を調査して田んぼアートに関する見識を深め、当市で取り組む場合の参考にするとともに、課題の洗い出しを行う。	
<b>■概 要</b> 田舎館村役場にて、鈴木村長を始め、村議会の鈴木議長・田村副議長・日村事務局長に出席していただき、企画観光課主幹兼商工観光係長の浅利氏にパワーポイントで田んぼアート事業に取り組んだいきさつから25年間の経緯、現在の取り組みなどの説明を受けた。質疑応答では、いろいろな角度からの質問が出たが解りやすく説明していただいた。その後、役場庁舎の展望デッキ及び天守閣展望台から第1会場の「ヤマタノオロチとスサノウノミコト」を鑑賞し、続いて第2会場の道の駅弥生の里の展望台から「桃太郎」と石のアート「石原裕次郎」「ダイアナ妃」を鑑賞した。	

### ■成果または所感等

今回、田んぼアート先進地の青森県田舎館村の視察では、35万人もの観光客が訪れる田んぼアートの魅力を探ること、アートに必要な技術面の調査を行うと同時に、安芸高田市で同様の事業を行なう場合、基盤整備、立地条件、アクセス、気候の違いによる稲の育成の問題などを確認することに主眼を置いて視察した。

まず、立地条件とアクセスであるが、田舎館村は津軽平野の南部に位置しており、山がまったく無い平坦な村である。安芸高田市の24分の1の面積に約7800人の人口があり、村とは名前だけの感である。弘前市（人口約と隣接し17万人）と隣接し、青森市（人口約28万人）から車で約60分、青森空港から約30分で鉄道（田舎館駅）もあり、立地条件がよく、アクセスも恵まれた地である。

田んぼアートについては、稲でここまでの絵がかけるのが不思議に思えるほど完成されたものであり、壮大さとあわせて見応えがあり、技術の高さとともに25年間取り組んでこられた情熱と歴史を感じた。また、役場庁舎の展望デッキや、集客力のある道の駅の第2展示場など既存施設の有効活用も非常に参考になった。

立地条件やアクセス面で条件が劣る安芸高田市で、鑑賞料金を取って短期間で10万人の来場者の想定は非常にハードルが高いと思われる。田舎館村と安芸高田市の気候の差もあり、稲の育成条件を考えると、約150日の開催期間の想定も徹底調査の必要があると思われる。

田舎館村は役場主導で実施してきたので25年間安定して継続することが出来ているが、安芸高田市が民間主導で田んぼアート事業を推進するためには実行組織と実施候補地を早急に決定して、市と責任を明確にしたうえで事業に取り組む必要があると考える。

いろいろな課題に対する市の取り組みについては、一般質問で取り上げる予定である。

議員報告書

1 議員名	塚本 近
2 期 日	平成29年 8月10日 ~ 平成29年 8月11日
3 研 修 先	青森県 田舎館村役場 道の駅 ひろさき
4 内 容	田んぼアート事業について 現地視察
■研修の目的 「田んぼ」アートプロジェクトについて 事業内容: 調査及び現地調査	
■概 要 青森県 田舎村はH27国調で面積22.35km <sup>2</sup> 人口7,783名、高齢化率32%で津軽平野 の南部の中央に位置し、古くは稲作文化の発祥の 地となっている。田舎村で「田んぼ」アートが開始されたのは、 平成15年からで、現在30万人に達し観光スポットとなっている。	
■成果または所感等 技術的には遠近法を用いて、描かれた下絵によって、稲の 種類7品以上を使用し、ボランティアの力をかりて、田植準備 から田植も行っている。本年において、田んぼアート事業は 市民、団体等の熱意と意欲をもって、事業推進を 計り、観光資源の1つになればと考えています。	

## 議員報告書

1 議員名	水戸真悟
2 期 日	平成29年8月10日～平成29年8月11日
3 研 修 先	青森県南津軽郡田舎館村
4 内 容	先進事例の調査 田舎館村における田んぼアート事業に係る現地調査研修
<p>■研修の目的</p> <p>安芸高田市の行政施策課題である「田んぼアート事業」について、調査研究するため青森県田舎館村の先進事例を視察する。</p>	
<p>■概 要</p> <p>田舎館村役場・田んぼアート事業について、田んぼアート第1・第2会場現地視察出席者・鈴木村長、浅利企画観光課主幹、鈴木村議会議長、田村村議会副議長、日村村議会事務局長 安芸高田市同行者・先川議長 塚本議員 芦田議員 浜田市長 青山部長 黒田課長補佐</p>	
<p>■成果または所感等</p> <p>田舎館村は津軽平野のほぼ中央に位置し、人口約8,000人、本年度一般会計規模約35億円の自治体である。田んぼアート発祥の地であり今年で25年の歴史がある。</p> <p>当初は稲作文化の継承の意味での田植ツアーイベントとして色の違った稲で田んぼに絵柄や稲文字を描いたことに始まる。</p> <p>平成15年に絵柄を「モナリザ」とした頃から田んぼアートと呼ばれるようになった。その後遠近法を採用して描写することとなる。</p> <p>第一会場(1.5ha)は村役場に隣接し、第二会場は道の駅弥生の里の敷地内(1ha)であり、いずれも展望デッキからの観覧となっていて、現在では第一・二会場合わせての入館者数は年間約35万人観覧収入約9,000万円と増加の傾向にある。さらに年間を通しての取り組みとして一昨年から石アートやスノーアートへの取り組みが始まっている。</p> <p>田んぼアート事業の推進母体は「田舎館村むらおこし推進協議会」であり、村・農協・商工会等で構成され村の活性化を目的として田んぼアートをはじめとした各種イベントに取り組んでいる。</p> <p>制作は図柄の選定に始まり、下絵、設計図の作成(遠近法)、種々の稲の育苗、圃場にポイント(杭)を打つ、田植イベント(1,300人)、修正草刈り水管理などの数々の工程を経て完成する。</p> <p>田んぼアートは7月～8月にかけて見頃を迎える。観覧収入は村の一般会計に歳入されていて収支は成り立っていることから継続した新たな展開が期待される。</p> <p>ふるさとイベント大賞をはじめアメリカンユニークアートワーズなど数々の受賞歴に輝く。</p>	

田舎館村の印象は弘前市に隣接していることや平野の中心部に位置している山間部は無く人口8,000人とはいえ安芸高田市に比して生活不便などとは無縁の地と感じざるを得なかった。

我が市の立地条件を鑑みるに田んぼアート事業への取り組みとしては、その位置や他の事業とのリンクを十分に熟慮して取り組む必要性を痛感した。

前述研修内容のとおり田舎館村においても試行錯誤の年月の積み重ねを見ると、イニシャルコスト・ランニングコストの精査をはじめとして田舎館村と青森県産業技術センターとの連携のように、各方面やあらゆる団体からのマンパワーの確保や、実働するボランティア活動団体の組織化や地元住民の理解等ソフト部門を先行して取り組む必要がある。

田んぼアート事業は、継続性かつ話題性を求める必要を痛感したがゆえに、本市の基本構想が目指す地域資源を生かしたまちづくりへの挑戦には、官民一体の未来像を一にしたポリシーの共有が求められる。

政務調査班報告書			
1 調査班名	「田んぼアートプロジェクト」調査研究班		
2 議員名	班長 先川 和幸	水戸 眞悟	塚本 近
	芦田 宏治		
3 期 日	平成29年 8月10日 ~ 平成29年 8月11日		
4 研修先	青森県南津軽郡田舎館村		
5 内容(目的)	先進事例の調査 田舎館村における「田んぼアート事業」について現地調査研修		
6 報告事項	<p>■調査の目的</p> <p>安芸高田市の行政施策課題である「田んぼアート事業」について、調査研究するため青森県田舎館村の先進事例を視察する。</p> <p>■概要</p> <p>田舎館村役場・田んぼアート事業について、田んぼアート第1・第2会場現地視察出席者・鈴木村長、浅利企画観光課主幹、鈴木村議会議長、田村村議会副議長、日村村議会事務局長 安芸高田市同行者・先川議長 塚本議員 芦田議員 浜田市長 青山部長 黒田課長補佐 <u>木戸副議長</u></p> <p>■成果または所感等</p> <p>○田舎館村は津軽平野のほぼ中央に位置し、人口約8,000人、本年度一般会計規模約35億円の自治体であり、田んぼアート発祥の地である。</p> <p>○田んぼアート事業に取り組み今年で25年の歴史があるが、その間の試行錯誤と苦労の過程を参考とすべきである。</p> <p>○地理的条件は平野部だけの村であって、山間部は有さず弘前市に隣接して生活の利便性に不利は無く、「青森ねぶた」との相関性もあり観光施策条件に富んでいることは見逃せない。</p> <p>○第一・二会場合わせての入館者数は年間約35万人観覧収入約9,000万円と増加の傾向にあり収支が成り立っていることに注目したい。</p> <p>○本市における「田んぼアートプロジェクト」の当面の課題としては、実働するボランティア活動団体の組織化や地元住民の理解等ソフト部門を先行して取り組む必要がある。</p> <p>○今後、本市における「田んぼアートプロジェクト」の推進については、この度の田舎館村における先進事例の調査研究の成果を参考にして、他の事業とのリンクや継続性将来性を勘案しつつ施策執行の方向性を注視し慎重審議を重ねたい。</p>		

(別紙様式2 ②)

・ 議 員 報 告 書	
1 議 員 名	矢 川 和 幸
2 期 日	平成29年 8月10日 ~ 平成29年 8月11日
3 研 修 先	① 青森県田舎館村役場 (田んぼアートナイト会場) ② 道の駅 urusaki
4 内 容	田んぼアート先進事例調査研究。 (現地視察)
■研修の目的 現在本市で取り組んでいる「田んぼアート整備事業」 について調査研究するため、先進地の事例を 視察するもの。	
■概 要 鈴木村長、鈴木議長等 <sup>村</sup> の最高責任者の 出席のもと、それぞれの苦労話、失敗例等をお聞きした。 現在は、入館者数は、35万人、観覧収入は約9000万 円になっているが、それぞれの25年の「先」は別添リーフの 通りであり、特に「遠近法」を採用する事により田んぼアート と呼ばれる様になった。	
■成果または所感等 ① 田舎館村は、「村」という、イメージではなく、 三軒平野のほぼ中央に位置し人口約8000人 一般会計、35億円規模の自治体で山間部は有さず 弘前市に隣接し観光施策条件に富んでいる。 ② 田んぼアート発祥の地であり、25年の歴史がある。 この間の失敗例は大いに参考すべきである。 ③ 仮に「稻」でもなくとも、この「遠近法」は大いに 参考すべきであると思ふ ④ 本市においては、「地域の熱意」1年を通じての 「展示手法」等々について慎重に審議する必要がある。	



## 議員報告書

1 議員名	山根 温子
2 期 日	平成29年 8月 16日 ~ 平成29年 8月 18日
3 研 修 先	Excelで学ぶ財政分析講座 富士電機能力開発センター 東京都日野市多摩平1丁目14
4 内 容	Excelシートを使用して、グラフ化することによってより深く理解する内容となっている。

### ■研修の目的

これまでの財政分析講座基礎講座、ステップアップ講座において学んだことを、Excelシートを使用し、グラフ化することによって自分の自治体の財政状況を把握し、似通った類団との比較などを行いより理解するため。

### ■概 要

これまで基礎講座で手書きしてきた財政情報の再確認と、エクセルファイルに財政データを入力してのグラフ作成及び読み取り、自治体の経年比較を行うと共に、類団市町との比較によるわが町の財政運営をみる。

### ■ 成果または所感等

財政分析を行うにあたっては、バブル景気崩壊やリーマンショックなどの社会状況とそれに対する国の施策等を理解しなければならない。複雑でもあり、財政用語や国が公開している種々の情報を集め、その中から必要な数値を引っ張り出していくことになれるにはまだまだと感じるが、すでに10数回の受講をされた新潟の議員もいらっしゃる中で、「習うより慣れろ」と大和田講師が言われることが胸に響いた。

わが町の財政の特徴と運営をさらに考え、グラフ化によって市民にわかりやすく説明できるようになることを目指したい。

(別紙様式2)

議 員 報 告 書	
1 議 員 名	秋田 雅朝
2 期 日	平成 29 年 8 月 29 日 ~ 平成 29 年 8 月 29 日
3 研 修 先 等	三次市三若町 2551-1 川西コミュニティセンター
4 内 容 (目的)	広島県市町議会議員政策研究会「広島クラブ」主催 「地方が元気になる勉強会」に参加
5 報 告 事 項	
(研修目的)	
<p>三次市では、「三次市まち・ゆめ基本条例」を基に、市民・行政・議会が協働してまちづくりを進めているが、その結晶として、三次市川西地区に「小さな拠点施設 川西郷の駅」をオープンして、存続をかけたまちづくりの取り組みをされています。「小さな拠点づくりの先進事例」として、研修することとしました。</p>	
(概要)	
＜主な研修内容＞	
「自治連合会の 10 年間の取り組みについて」	
講師：福永 要氏 (川西自治連合会 会長)	
1. 「里づくりビジョン 基本目標」	
～いつわ (五輪・和) でつくる田舎暮らしが楽しい里づくり～	
2. まめな川西いつわの里 ビジョンと活動 (抜粋)	
① 2005 年 ビジョン策定委員会設置	
② 2006 年 里づくりビジョン策定	
③ 里づくりの 2 大柱	
・ 都市農村交流施設「ほしはら山の学校」整備	
・ 地域生活拠点づくり・・・川西農村丸ごとミュージアム (川西郷の駅)	
④ 2016 年 第 2 次里づくりビジョン策定	
・ 里づくり委員会設置・・・ビジョン推進の専門組織	
⑤ 川西診療所と川西小規模多機能施設の一体的運営	
・ 小規模多機能施設運営推進会議で情報交換	
⑥ 自治組織はどうして必要なのか	
・ 地域経営を行う機能と組織が地域生き残りのキーワード	
・ 地域を代表する組織の性格がある	
・ 21 世紀の地域社会は協働型社会で、推進するには最適な組織	

## 「小さな拠点・取り組み事例発表」

講師：平田 克昭（株式会社「川西郷の駅」 代表取締役社長）

1. 「小さな拠点」により、地域に賑わいと安心と誇りを
  - ① 個人と家族・住民と市民の関係の重要性
  - ② 新しい時代に対応したコミュニティの結び直し
2. 「川西郷の駅」建設経過
  - ① 地域の現状について
  - ② 運営会社設立
  - ③ 株式会社「川西郷の駅」の設立・・・2014年発足
  - ④ 施設規模と建設費について

### （成果及び所感）

今回の研修では、人口1126人・480世帯、高齢化率48.4%の三次市川西地区の、存続をかけた取り組み「小さな拠点づくり」について、住民の思い・これまでの経過等を地元の講師により研修させて頂きました。

成果として、住民の熱い思いがあれば、しっかりしたリーダーのもとで、協働の精神により、「住みよいまちづくり」ができるんだということを実感したことでした。

ただ、所感としては、「小さな拠点施設」を整備するには、なみ大抵の努力ではできないなということでした。「先を見据えた計画性」・「住民相互の理解と協力」・「行政と議会の連携」などが整って、なおかつ、長い年数が必要であり、幾多の会合を経て、成し得るんだなということでした。川西地区では、こうした点を乗り越えられて今があるんだなということ強く感じているところです。

この研修で得たことを、本市のまちづくりに生かせればと思っています。とりわけ「小さな拠点づくり」は、本市における喫緊の課題だと認識しています。更なる勉強を重ねて参りたいと考えています。

(別紙様式2 ②)

議員報告書

1 議員名	玉井直子
2 期日	平成29年8月29日 ~ 平成29年8月30日
3 研修先	三次市十日市南1-10-1 三次市グランドホテル
4 内容	地方が元気になる勉強会 「小さな拠点施設 川西・郷の馬」 子育て支援施設「みよし森のポケット」
<b>■研修の目的</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 小さな拠点施設「川西・郷の馬」オープンまでの先進事例としての取組を聞き、現地視察。</li><li>・ 子育て支援施設「みよし森のポケット」の現地視察。</li></ul>	
<b>■概要</b> <p>1日目8月29日：自治連合会の10年間の取組みを受講。 講師：福永 要 川西自治連合会会長 ・ 小さな拠点・取組み事例発表 講師：平田 克昭 (株)川西郷の馬代表取締役社長 ・ 現地視察</p> <p>2日目8月30日。「みよし森のポケット」子育て・女性支援について 三次市子育て・女性支援部</p>	
<b>■成果または所感等</b> <p>少子高齢化が進む中山間地域の自治体は存続をかけて様々な施策を展開しています。三次市においては「三次市まち・ゆめ基本条例」に則り、市民市議会が協働のもとまちづくりを進めておられ、三次市川西地区に小さな拠点施設「川西・郷の馬」をオープンされました。</p> <p>永年にわたる取組みを聞き現地視察しました。</p> <p>地域づくり、地域の活性化には協働と多目的の組織が必要であり、リーダーの存在が重要だとともに参考にさせていただきます。</p> <p>そして少子化対策・子育て支援事業として4月19日にオープンした子育て支援施設「みよし森のポケット」の現地視察をしました。木のぬくもりのあるたいていへんいい施設に感じました。</p> <p>大人も子どもも楽しめる施設で何度でも行きたいような開放感のあるものでした。</p> <p>参考にしていきたい斬りのある施設でした。</p>	

(別紙様式2 ②)

議員報告書	
1 議員名	山本 優
2 期 日	平成29年 9月10日 (1日)
3 研 修 先	大阪市港区弁天 1-2-1 ホテル大阪ペイタワー
4 内 容	安芸高田市ふるさと応援の会関西地区設立総会出席
<b>■研修の目的</b> 安芸高田市ふるさと応援の会関西地区設立準備委員会、意見交換会出席	
<b>■概 要</b> 別紙出席者のもと、安芸高田市行政の現状(副市長)、教育行政の現状(教育長)、議会の現状(議長)、ふるさと応援の会の発足について(副議長)、など説明し意見交換を行った。 また、中学生の地域特産販売【あきんど体験】について説明し、協力をお願いした。	
<b>■成果または所感等</b> 安芸高田市ふるさと応援の会は地元をはじめ、広島、関西(近畿を含む)、関東と全国ネットで組織が出来上がった。全国に散らばる安芸高田市出身の多くの人達が故郷のことに多くの関心を持っておられる。我々地元に住んでいる者ももっと自覚を促し、皆さんの応援を受け止める行動、政策が必要と考える。 中学生の販売体験企画について、大阪地区にはそのような企画を実施している場所が他にもあるので協力してゆきたいとの意見がありました。 また、本市では民宿の実績が多くあるので活用していただきたいとの意見も出されました。 初の意見交換会でしたが安芸高田市の現状をしっかりと説明し、今後の支援、応援を得るためには大変貴重な機会であったと思います。	

(別紙様式2 ②)

議員報告書

1 議員名	水戸真悟
2 期 日	平成29年 9月10日 (1日)
3 研 修 先	大阪市港区弁天 1-2-1 ホテルベイタワー(会議室他)
4 内 容	安芸高田市ふるさと応援の会関西地区設立準備委員会並びに総会出席

■研修の目的

安芸高田市ふるさと応援の会関西地区設立準備委員会に出席し、関西地区設立の経緯近況を把握し今後の方向性などにつき意見交換に臨むと共に設立総会に出席する。

■概 要

安芸高田市ふるさと応援の会関西地区設立準備委員会における意見交換会出席者は別添のとおりである。

松野商工観光課長の司会進行により、委員長児玉徹氏(向原町出身)から概要の説明と挨拶があり、各々の簡略な自己紹介があった。

安芸高田市の現状については竹本副市長、市議会の状況について先川議長、教育行政の現況については永井教育長、又本会の前身である美土里町出身者の会から本会への経緯について水戸副議長が概略説明をした後自由意見の交換がなされた。

とりわけ9月14日に高宮中学校2年の京橋商店街でのゆず加工品販売体験への協力依頼には関心ある意見が寄せられた。

■成果または所感等

安芸高田市ふるさと応援の会関西地区の設立によって本部、広島、関西、関東と一連の広域ネットワークが形成されつつあり、関西地区にあっては近畿広島県人会が大きな役割を担っていると感じた。

総会員数は2,300名超となり、いかに本市出身者としての満足度を醸成できるかが、本市に課せられた大きな課題と考える。

民泊スタイルの修学旅行受け入れの提案などもあった中、農産物をはじめ毛利元就や神楽などの伝統芸能、スポーツなどの本市のストロングポイントにより一層の磨きをかけてこの応援の会を元気なPR媒体と考えたい。

総会行事では関西地区会長に児玉徹氏が就任された。

アトラクションに神幸神楽団が総会に花を添えられたが、その盛況ぶりに会員の胸中に去来する郷愁の想いを垣間見た。

広島神楽東京公演をはじめとして、安芸高田市ふるさと応援の会の今後の本市としての方向性をしっかりと見極めたい。